

1歳で～す
毎月1番最初に
生まれた赤ちゃん

たけしま けん と
竹島 健人くん
平成19年6月5日生



父 大介さん
母 香織さん
求名町公民会

お母さんから一言
明るく元気に成長してね。

わかまつしょうこ
若松翔子ちゃん
平成19年6月5日生



父 茂さん
母 淳子さん
尾原公民会

お母さんから一言
元気で明るく、たくましく育ててね。

誕生おめでとう
4月16日～5月15日届出分(13人) 敬称略

福山 怜都男	永山 翔和男	桐原 貫樹男	西之原 千花女	原之園 瑛太男	平田 佑翔男	船渡 紋花女	中原 翔梧男	柳田 康介男	中屋 美桜女	坂元 駿哉男	宮内 寿鳳男	下野 晴香女	しもやしき 弥五郎
上中 榎良	磨介旭	城之口 作	時言新町 仁	川原町 司	町頭 樹	櫃ヶ迫 一	船木西 博	紫尾中 樹	上向 太	下平川 二	多郎	巧弥	五日町

おくやみ申し上げます
4月16日～5月15日届出分(30人) 敬称略

田之上 廣盛	上薬 利男	末吉 徳雄	若松 ヒデ	久保 繁人	森永 澄隆	新山 誠	南田 光夫	高城キミ子	福崎 次雄	西之園良子	鍛冶屋トミ	現王園和夫	外越 徳	中尾 照光	堂園タミ工	石塚 博美	原田 文男	喜入 ワイ	喜入 ワイ
92	71	82	84	86	78	74	77	82	80	75	74	80	80	87	92	71	81	95	95
ぼたる	岩元	荒瀬	一ツ木	さくら	北方町	五日町	川原町	八幡馬場	広橋	上向中	弓之尾	五日町	船木西	下狩宿	白男川中	大願寺	白男川中	弓之尾	尾付野善行

篤志寄付
町社会福祉協議会へ
スナック夢路10周年チャリティ
イーゴルフコンペ
さつま歌謡教室
紫尾区大衆浴場 上之原純夫

※誕生・おくやみは、届出意向された方だけ掲載しています。

上之原 豊	尾野野善行	神脇 喜市	佐伯 貞義	中野タキ子	中園 広信	矢越 厚子	外堀 一成	山下 一摩	上之原 浩	羽子田チドリ
87	82	85	84	81	43	81	84	78	48	81
種子田	さつま園	愛宕	北原	虎居大角	中央	時吉新町	西湯田原	町頭	西手西	

こんにちは、保健師です 健康さつま21シリーズ⑩ 栄養・食生活

食生活は、発育、教育、健康の維持増進の源！

平成17年食育基本法が制定され、それまで、それぞれの立場で行われてきた食育への取り組みをいろいろな関係者が連携・協力しながら国民運動として取り組んで行くこととなりました。そのひとつが、毎月19日は「食育の日」、6月は「食育月間」としての普及運動です。

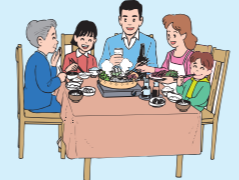
※あなたの食事は、バランスが取れていますか？

本町の生活習慣アンケートでは、朝食を食べない人が、約2割でした。健康な毎日を過ごすため、まず、きちんと食事をとること！生活のリズムを整え、睡眠や身体活動との時間配分を考えた「食事」にしましょう！ 体重管理のため、体重計にのる習慣をつけましょう！ 食品の表示に関心を持ちましょう！

今よりもっと野菜を食べましょう！ 日常の食材は、新鮮で安全な地場産のものを使用しましょう！ 調味料や味付けの工夫で塩分を控えましょう！ おやつは時間と回数を決めて、なるべく糖分の少ない物を！

※食事はよく噛んでゆっくり楽しく食べていますか？

よく噛める歯を保つため、定期的な歯の診察を受けましょう！ 食事時間は一家団らんの際は、テレビを消して、家族と話しましょう！



つづら工芸
しもやしき くみこ
下屋敷 くみ子さん 75歳

山に自生するツツラはツルが柔らかく、つづら工芸を作るのに最適です。昔と比べると山が雑木林から植林に変わったり、山に自生するツツラが少なくなつたと言います。

つづら工芸には、採取したツツラを1ヶ月間ほど陰干しして自然乾燥し、一晩、ぬるま湯で戻して、しんなりとなつたツツラを使い編み上げていきます。ツルは直ぐに硬くなるため、2日から3日で仕上げていきます。お客様の注文に応じて、つる籠などを作るときは、大小の木枠を作り、木枠に沿って籠底の部分から編み上げていきます。

つづら工芸品を作る作業が一番難しいのが、ツルを引いて締めいく作業と下屋敷さんは言います。ツツラを編んでは引

DATA
つづら工芸作業場(自宅敷地内)
つづら工芸 下屋敷 くみ子
さつま町柗野2511番地1
☎ 0996(59)8741

このコーナーでは、さつま町で働く人々の姿を紹介しつづら工芸品とつづら工芸作業場

このコーナーでは、さつま町で働く人々の姿を紹介しつづら工芸品とつづら工芸作業場

天然ツツラを編み上げる

しと仕事
さつまに生きる

大地の恵みの香りが漂う農山村集落の小さな作業場。そこでは、下屋敷くみ子さんが、天然ツツラを編み上げています。下屋敷さんが編み上げるつづら工芸は、手だけで編み上げる昔ながらの伝統的工芸品です。その伝統的な編み方は、実母である東條ノリさんから受け継がれたものです。

つづら工芸の材料となるツツラは、夫の勝哉さんが、紫尾山系の奥山に入って採取してきたものを使います。紫尾山系の奥



山に自生するツツラはツルが柔らかく、つづら工芸を作るのに最適です。昔と比べると山が雑木林から植林に変わったり、山に自生するツツラが少なくなつたと言います。

つづら工芸には、採取したツツラを1ヶ月間ほど陰干しして自然乾燥し、一晩、ぬるま湯で戻して、しんなりとなつたツツラを使い編み上げていきます。ツルは直ぐに硬くなるため、2日から3日で仕上げていきます。お客様の注文に応じて、つる籠などを作るときは、大小の木枠を作り、木枠に沿って籠底の部分から編み上げていきます。

つづら工芸品を作る作業が一番難しいのが、ツルを引いて締めいく作業と下屋敷さんは言います。ツツラを編んでは引

で、又、編んでは引いてと繰り返します。この作業は、耐久性をよくし、しつかりとした形を作っていくために必要な作業で、ここで、つづら工芸品の善し悪しが決まります。

下屋敷さんは「自分でアイデアを出しながら編んでいく楽しさがあります」とつづら工芸の魅力を話されました。

下屋敷さんが作る作品は、鹿児島県のつづら工芸品として認定されています。下屋敷さんは県内をはじめ、東京や大阪などで開催される鹿児島県の物産展に出向いて実演をしたり、宮之城伝統工芸センターのつづら工芸教室で、つづら工芸を教えたりと、つづら工芸の第一人者として活躍されています。